

# まえほ通信

## あの時この時

—ゲストさんと共に—

ガイドヘルパー 日吉達郎

△朝潮橋アイススケート場

「うわあ、どないしょ・・・あかん、近寄らんとつて。しがみついたらアカン、わあッ」

どてん、と尻もちです。搦いたのは、日吉のみ。

〇〇さんは、そろり、そろりの、へっぴり腰。経験者といえ、下手さ加減は似たようなものです。

でも、二時間も経つと、よたよたふらふら、ともかくも水上滑走。楕円形のスケートリンクを、仲良く手をつないで横切り、

「やったあ、南極大陸横断や！」  
スケート初体験の日吉は上機嫌。  
〇〇さんも、にこにこ顔でした。

△生駒遊園

山上の芝生で、卵入りラーメンを煮、割箸に突き刺したウインナをくるくると焼き・・・デザートはブルーベリーヨーグルトです。

おいしそうに食べてはったのが、

|     |   |
|-----|---|
| 発行日 | 2014年8月1日   |
| 発行元 | 自立センター前穂<br>〒569-1022<br>高槻市日吉台<br>1番町21-18<br>072-689-8600 |

「ヒヨシ、サン」

日吉は感動しました。ヨーグルトをお裾分けしてくれたこと以上に、初めてわが名を呼んでくれたことに。

△△さんとは、これで五回目。ああ、やっと、日吉の存在が、名実ともに△△さんの胸に染み入ってくれたかと・・・。

桜が満開の山上遊園でした。

△大文字山

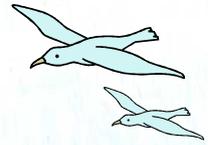
爽やかな秋晴です。大の字の右上あたりで、お弁当にしました。

「上から見たら、大文字山やなあ」のんびり箸を使っていると、幼稚園児たちが登ってきて、口々に、コンニチワ、コンニチワ・・・可愛らしいごあいさつ。

□□さんは、箸をとめて、「ミナネエ、ナガネエカゴカヨオ・・・」と、いつもの独り言。ワカラヘーン、と赤白帽子のおちびさんたち。

「みんな、なかよくねエ、てゆうてくれはったんよ」と先生。

なるほど、そうも聞こえる。オジチャン、アリガトオ・・・口々ににぎやかです。若い女先生も、



にわか人気者になった□□さん。日吉は嬉しいでした。

△桜橋ボウル

阪急梅田駅から地下 街を歩いて、「あっちゃや、そっちゃや、あ、ちこた、こっちゃ・・・」

うろろろするのを、おとなしく付いてきてくれます。

やっと、地上へ出て、ボーリングの看板を見つけた時は、ほっとした笑顔。（この人、ちゃんと連れてってくれるのかなあ？）と内心、心配してたのかな・・・。

ボウルを持つと、がぜん元気になり、日吉を大きく引き離して、先輩の賞録を見せてくれます。ころころと転がし、ピンをばたばたと倒しては、振り返ってにっこりVサイン。

日吉も、ガイドヘルプのおかげで、二十年ぶりにボーリングをさせてもらって、感激です。

◇◇さん、今度一緒にくるときは、そう簡単に負けへんでエ」

階下の食堂で、親子どんぶりを食べ、中之島を散歩して帰りました。

\*

が資料作成に及んだ時です。「とっても大事なものですからね。万一、火事にでもなったら、ゲストさんの次にすぐ持ち出さなくっちゃ」

と、草色のファイルを胸に抱きしめられました。

プログラム事業でのゲストさんたちのことを、さまざまに書きため、まとめた資料——それは、単なる事務文書でなく、福祉事業所の代表者であるとともに福祉活動に携わる一人でもある松原さんが、ゲストさん一人一人へのおもいをこめて綴った文章だからこそなのでしよう。目をまんまるくして述懐する、そんな松原さんの様子を思い出しながら、わが拙い、△移動支援報告書△のいくつかを書き写してみました。

